



通信 vol.77

URL: <http://www.kodoh.co.jp>

2019年4月発行

木童 東京支店

東京都新宿区西新宿 7-7-26 ワコーし新宿第一ビル408
TEL: 03-5937-5069 FAX: 03-5937-5079
E-mail: tokyo@kodoh.co.jp

木童 神戸本社

兵庫県神戸市北区大沢町篠 437
TEL: 078-954-0072 FAX: 078-954-0257
E-mail: muku@kodoh.co.jp

★シイノキの工場見学

1月中旬、木童に1通のメールが届きました。山口県でシイのフローリングを作っている会社から、木童の製品ラインナップに入れてもらえないか？という内容でした。木のソムリエを自負する木童としては、ぜひ視察がしたいとお願いし、2月末に訪問してきました。

新山口駅から車で走ると、中央部から北上するにあたり、普段見慣れた杉や檜の山々から、木の頭がこんもりとして丸くなった照葉樹の雑木林の山に変化していきます。この地方では「シイ」「タブ」「クス」「カシ」などの広葉樹が多く自生し、特にシイは安定供給ができるとのことでした。

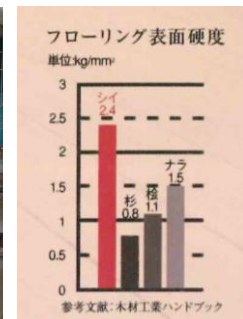


シイは東北地方で見慣れた栗とよく似ているのだろうと思っていたのですが、見た目は栗よりも白く、どちらかと言えばホワイトオークに近い感じです。硬く、耐候性にも優れ、腐りにくい特長を持っています。(下記資料参照)

原木は30年~40年生で直径が約30cm~40cm、長さは2.1mで揃えてあり、これらがフローリングとして活用されていました。60年~80年生の高齢級の原木は、直径が60cm~80cmくらいで長さは4m、階段の段板や玄関の式台、框、巾木などの造作材、それから家具用材として使われています。

シイも他の広葉樹と同じく、製材をして原板を3~6ヶ月天然乾燥を行い、その後 人工乾燥→養生→製品加工 と長い時間を経て床材になっていきます。

午後からは社長の自宅を訪問。3年間雨ざらしになっても変化のないシイのデッキ材や外壁材に感銘を受け、長門市のおもちゃ美術館では、年長の子どもさんたちの遊び場として張られているシイのフローリングを見学し、寸法安定性の良さも確認できました。



滞在時間3時間半という短さでしたが、中身の濃い視察でした。帰路は一両編成のローカル線に乗り、景色を楽しみながらのんびり帰りました。山だけでなく、日本海の美味しい魚もしっかり堪能してきました。



★杉型枠コンクリート用本実板

公共建築や大型施設でおなじみの「杉型枠コンクリート」。無機質な素材に木の木目を転写することで、柔らかく優しい雰囲気を作り出す工法として近年よく目にします。実はこの杉型枠コンクリート、かなり昔からの技術だということはご存知ですか？

今のようにコンパネが普及していなかった時代、型枠といえば普通にこのような杉板が使われていました。つまりコンクリート型枠材としてはこちらが起源というわけです。仕上がりはコンクリートですが、その過程で無垢の木を使うのであればと、木童でも研究を重ねようやく製品化、徐々に色々なところで採用頂けるようになってきました。この型枠用の杉材、使い捨ての材料だから何でもいじらうと思われがちですが、やはりここにも適材適所があります。コンクリート面に杉のアクが移らないよう、赤身の強いものは極力省いたり、節に関してもあまり多くないものを選別したり、仕上がり後の補修が少なく済むような材料選びを心がけています。



そして重要な仕上がった時の木目、より立体的にきれいな木目が出るように焼杉加工で培った浮造りの技術を応用、試行錯誤を繰り返すことで、メリハリの利いた最適な凹凸を表現できるようになりました。公共建築のような大型物件はもちろん、戸建の住宅等でのワンポイントでもご使用いただけるように少ロットでの対応も可能です。

写真：杉型枠用本実板 (w100mm×t12mm) 大阪府池田市F邸

★家づくり現場レポート① インターナショナルスクール/栃木県 設計:中村勉総合計画



今年の春に開校したインターナショナルスクール。エントランスを入ると目の前には大きな階段がお出迎え。その入り口の顔となる階段に「とど松三層パネル」を採用いただきました。

写真左の大階段は腰をかけられるベンチになっています。長時間座ってもお尻が痛くなりくいように、とど松の柔らかい性質が活かされています。

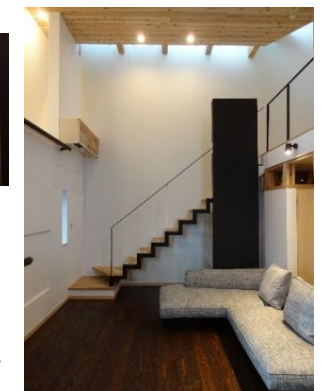
踊場の部分は施工の都合上「とど松フローリング (1820×100×12mm)」を一面に貼っています。2Fにつながる階段も同じ「とど松三層パネル」で統一して、仕上げに「木童の桐油」を塗装しています。

階段材は住宅に納品することが多いのですが、規模が大きくなってもいつも通りプレカット加工で納品することで、現場の手間も減らすことができ良かったです。実際に公共施設での大規模な階段を見るとその光景は圧巻！でした。

★家づくり現場レポート② T邸/大阪府 設計:いるか設計

「から松」は、名前に“松”と付くからか、それとも節有の表情からなのか、第一印象は“和”と捉えられることが多い木です。最初にこの住宅のためにサンプル依頼を受けたとき、濃い色を付けて仕上げたいと設計士さんからお聞きしたので、塗装サンプルを作りながらずっと和テイストの家を想像していました。決まったという色も「木童の和色/古茶」で、これまでも古材風に仕上げたいと言われた時に提案してきた色でした。

ところが!!! できた家を見てびっくり。ちっとも和風な家じゃないことに驚きます。もともと、こちらの住宅では床暖房が入る予定になっていたのですが、ナラの複合フローリングが入ることになっていました。から松への変更は予算アップにはなったのですが、無垢の質感とのバランスを考えれば許容範囲だと判断してもらい、最終的に施主さんにOKをいただきました。ちなみに設計士さんはから松を見ても全然イメージがぶれることはなかったそうです。デザインの方は偉大です。先入観を持たずに、柔軟に材をおすすめすることを学んだ現場でした。



★家づくり現場レポート③ 横浜S邸 設計:ビルトロジック 施工:堀井工務店

前回の木童通信でも特集した“床暖房”仕様実績豊富な木童自慢の「南波から松」の床材と、階段の踏板に「から松三層パネル」を採用して頂いた住宅を紹介します。

今回の階段は、施主様の意向で黒を使いたいというコンセプトから、側板は鉄で作り、踏板も鉄板を敷いてその上に乗せる形になっています。木の家のなかであって、黒い鉄板というのは、目立つわけではないけれども“映える”存在。そこに組み合わせたから松三層パネルの方まで上品に見えるから不思議です。とてもシャープですっきりとした印象の階段に仕上がりました。

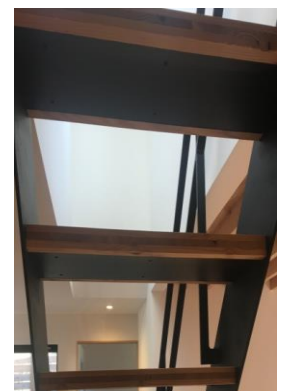
オープンハウス当日は、床暖房の試運転も兼ねて稼働していましたが、暴れもなく整った状態で「南波から松」が張られていて、生産者の職人技と目利きに間違いは無いと改めて思いを寄せました。

KODOH NEWS

■木童公式 Instagram 始めました!



Follow me!



■GWはカレンダー通りのお休みをいただきます。工場も同様にお休みになり、運送も混みあうことが予想されます。4/下旬~5/初旬の納品については、余裕をもってご注文いただけますようお願い申し上げます。

■4/20(土)東京支店、4/21(日)郷の音ホール(三田市)10時~16時で無料住宅相談会開催します。

※木童通信をHPよりダウンロード出来ます。バックナンバーをご希望の方はこちらをご利用下さい。